

国民のためのお金

三条市立第三中学校 三年 大橋 一葵 おおはし いつき

私が初めて「税金」というものを知ったのは、私が保育園児のときでした。おばあちゃんと一緒にスーパーに行ったとき、私はお菓子を買ってもらいました。すると私はあることに気づいたのです。それは、以前と同じお菓子なのに値段が少し高くなっていることに気づいたのです。私は「この店ぼったくり！」とおばあちゃんに言いました。すると、おばあちゃんは笑って、「それは税金だよ。」と教えてくれました。その時の私は「税金って何だろう。」と不思議に思いながらも、深く考えることはありませんでした。

最初の頃、私は「どうして国は国民からお金を取るのだろう。」と単純に疑問を持っていました。「せっかく働いて貯めた大事なお金をどうしてわざわざ国に差し出さなきゃいけないの？」と、当時の子ども心の私は、税金はただの「取られるもの」にしか思いませんでした。

しかし、学校で社会科を学んだり、ニュースで世の中の出来事を知ると、税金は「みんな（国民）で支え合うためのお金」だということがわかりました。例えば、私が通っている学校の教室や机、使っている教科書にも税金が使われています。何気なく毎日利用している道路や信号機、公共施設も税金があるか

ら維持されているのです。さらに、ニュースで大きな災害が起きたときに税金が被災地の修復や被害にあった人々の生活を支えるために使われていることを知り、税金は人々の暮らしに欠かせない存在だと実感しました。もし税金がなければ、救急車や消防車といった命を守るサービスが成り立たないのだと思うと、とても大きな意味を持っていると感じました。

私の家庭の中でも、税金の存在を身近に感じることはありません。病気で施設に入っている母の生活の中にも、きっと税金が関わっていると思います。そう考えると、税金は自分たちから遠い存在ではなく、私達の生活のすぐ近くにあるのです。

もちろん、税金の使い道については問題も感じます。ニュースでは税金の無駄遣いが報じられていることもあります。それでも、税金そのものが社会を支えるために欠かせないものであることは変わりありません。私たち一人一人が税金の役割を正しく理解し、将来は責任を持って納めていくことが大切だと思います。

税金は子どもの頃の私にとっては「不思議なお金」であり、「取られるもの」だと思っていました。しかし、今は「みんなで助け合うためのお金」であり、私たちの暮らしを支えてくれる大切な存在だと考えるようになりました。いつか私も働くようになったら、自分が社会の一員として税金を納め、誰かの生活を支える側に回りたいと思います。そして、あの日、おばあちゃんに教えてもらった「税金」という言葉を大切にしたいです。